

平成17年度(平成18年3月期) 中間決算 説明会



平成17年11月9日

塩野義製薬株式会社

代表取締役社長 塩野 元三



塩野義製薬株式会社



Agenda

○ 平成17年度 中間決算の概要	ページ
・ 経営成績	2
・ 財政状態及びキャッシュ・フローの状況	3
・ セグメント別売上高	4
・ 営業利益	5
・ 営業利益 増減の要因	6
○ 平成17年度 業績予測	
・ カプセル事業売却	7
・ 業績予測	8
・ セグメント別売上高予測	9
・ 営業利益予測	10
・ 配当について	11
○ 第2次中期計画：重点目標の進捗状況	
・ 研究開発	12
・ 営業	16



平成17年度 中間決算：経営成績（連結・単体）

(単位：億円)

	17年上期 実績	16年上期 実績	対前年 UP率%
< 連結 >			
売上高	968	953	1.6
営業利益	121	103	17.5
経常利益	123	101	21.3
当期純利益	83	81	2.3
< 単体 >			
売上高	875	854	2.5
営業利益	104	78	33.2
経常利益	118	84	40.1
当期純利益	84	70	19.5



平成17年度 中間決算：財政状態及びキャッシュ・フローの状況(連結)

	17年9月期 実績	17年3月期 実績	増減
< 財政状態 >			
総 資 産	3,923	3,969	46
株 主 資 本	3,148	2,998	150
株 主 資 本 比 率	80.3%	75.5%	+4.8%
1 株 当 り 株 主 資 本	924円33銭	879円79銭	44円54銭
	17年上期 実績	16年上期 実績	
< キャッシュ・フローの状況 >			
営業活動によるC / F	85	131	
投資活動によるC / F	12	38	
財務活動によるC / F	224	26	
現金等期末残高	808	753	



平成17年度 中間決算：セグメント別売上高（連結）

	17年上期 実績	16年上期 実績	(単位：億円) 対前年 UP率%
医療用医薬品	802	799	0.3
フロモックス	151	143	6.2
フルマリン	87	90	2.9
塩酸バンコマイシン	82	84	1.9
イムネース	53	54	0.9
クラリチン	33	24	33.8
オキシコンチン	20	12	65.2
MSコンチン	20	32	39.2
一般用医薬品	32	31	5.1
診断薬	18	18	3.5
工業所有権等使用料収入	41	23	80.3
クレストール	32	18	82.3
カプセル	61	59	2.4
不動産賃貸・その他	15	23	36.6
合計	968	953	1.6

* 医療用医薬品の製品別売上高は単体売上高



平成17年度 中間決算：営業利益（連結）

(単位:億円)

	17年上期 実績	16年上期 実績	対前年 UP率%	増減
売上高	968	953	1.6	15
(ロイヤルティ)	(41)	(23)		(18)
	36.9	38.6		
	(38.6)	(39.6)		
売上原価	357	368	2.9	11
	50.6	50.5		
販売費・一般管理費	490	482	1.6	8
販売・管理費	337	324	3.9	13
研究開発費	153	158	3.2	5
	12.5	10.9		
営業利益	121	103	17.5	18



平成17年度 中間決算：営業利益 増減の要因

(単位：億円)

販売の減	2
ロイヤルティの増	+ 18
製造費用の減	+ 10
販管費の増	13
研究開発費の減	+ 5
合 計	+ 18



平成17年度 業績予測：カプセル事業売却

カプセル事業

シオノギクオリカプス株式会社
シオノギヨーロッパ B.V.
シオノギクオリカプス S.A.
シオノギクオリカプス INC.

カーライル・グループへ
株式譲渡

10月3日譲渡完了

- ・医療用医薬品事業への経営資源の集中
- ・業績への影響
 - ・売上高：約120億円 / 年，営業利益：約14億円 / 年の減少
 - ・来年度以降、原価率（連結）は年間2ポイント程度の低下
 - ・17年下期、特別利益単体120億円、連結88億円を見込む



平成17年度 業績予測（連結・単体）

(単位: 億円)

	17年度 予 測	16年度 実 績	対前年 UP率%
< 連結 >			
売 上 高	2,000	1,993	0.3
営 業 利 益	293	287	2.0
経 常 利 益	285	278	2.5
当 期 純 利 益	225	189	18.8
< 単体 >			
売 上 高	1,870	1,807	3.5
営 業 利 益	265	245	7.8
経 常 利 益	278	254	9.0
当 期 純 利 益	265	177	49.0



平成17年度 セグメント別売上高予測（連結）

	17年度 予 測	16年度 実 績	(単位:億円) 対 前 年 UP率%
医療用医薬品	1,710	1,680	1.8
フロモックス	343	332	3.4
フルマリン	165	170	2.9
塩酸バンコマイシン	157	161	2.3
イムネース	105	104	1.4
クラリチン	103	89	15.3
オキシコンチン	47	29	62.2
MSコンチン	40	56	28.0
フィニバックス	10	-	-
アベロックス	10	-	-
一般用医薬品	66	63	4.1
診断薬	33	35	7.8
工業所有権等使用料収入	100	61	63.8
クレストール	85	48	77.1
カプセル	61	118	49.1
不動産賃貸・その他	30	33	11.6
合計	2,000	1,993	0.3

* 医療用医薬品の製品別売上高は単体売上高



平成17年度 営業利益予測（連結）

(単位:億円)

	17年度 予 測	16年度 実 績	対 前 年 UP率%	増 減
売 上 高	2,000	1,993	0.3	7
(ロイヤルティ)	(100)	(61)		(39)
	34.8	37.2		
	(36.6)	(38.3)		
売 上 原 価	695	740	6.2	45
	50.6	48.4		
販売費・一般管理費	1,012	966	4.8	46
販売・管理費	672	672	0.1	0
研究開発費	340	294	15.6	46
	14.7	14.4		
営 業 利 益	293	287	2.0	6



配当について

基本方針

今後の事業展開に向けた資金需要、各期の業績動向を勘案しながら、利益配分を行っていくことを基本方針とし、配当については、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを中長期的な視点で安定的に向上させることを目指す。また、自己株式の取得についても、資本効率の向上の観点で機動的に活用していく。

なお、配当の具体的な指標としては、安定的な配当額を維持しつつ**連結配当性向で25%前後**を目途とする方向で検討していきたい。



研究開発領域 Update

- 領域別 研究・開発・サポート部隊体制が進展
TAカンファレンスによるMPDR協働体が機能
- 更なる「プライオリティ」の徹底と実行体制の整備
 - 研究 3ヶ月毎の review 再設定
 - 開発 本格的CRO活用による社内リソース再配分

機動的R&D機能の確立へ



パイプライン Update - 1 -

- **フィニバックス(ドリベネム)、アベロックス(モキシフロキサシン)承認**
- **申請中3品目: 承認可能性に問題なし**
- **後期phase 国内開発: on time**
 - LY248686 (うつ)
 - S-7701
 - **イルベサルタン 追加臨床**
- **PLCM: クレストール IVUS試験**
フィニバックス 2回投与 vs 3回投与比較



パイプライン Update - 2 -

- Phase 開始

<国内> LY248686 : 糖尿病性神経因性疼痛 (DNP)

S-013420 (新規マクロライド'経口抗生物質) :

呼吸器領域

<海外> S-2367 : 肥満

S-5751 : 喘息

- phase / NS-75B 前立腺肥大

パイプラインの整理/プライオリティ付けが軌道に



研究領域 Topics

- 研究後期プロジェクトは総じて順調に推移
抗グラム陰性菌抗生物質がback-upへ
FTIH前段階(後期前臨床): 4化合物
上記に次ぐproject: 4 project
- 疼痛領域における包括提携
最終段階
中期経営計画目標達成へ



営業領域：感染症(注射)

- 抗生剤市場におけるNo.1シェアのプレゼンスの拡大 -

2005年度:上期

- ・ シェア:フルマリン+プロアクト(セフェム 05年度上期:22.4%)
- ・ 新製品:フィニバックス9月16日新発売

第2次中期計画の達成への展望

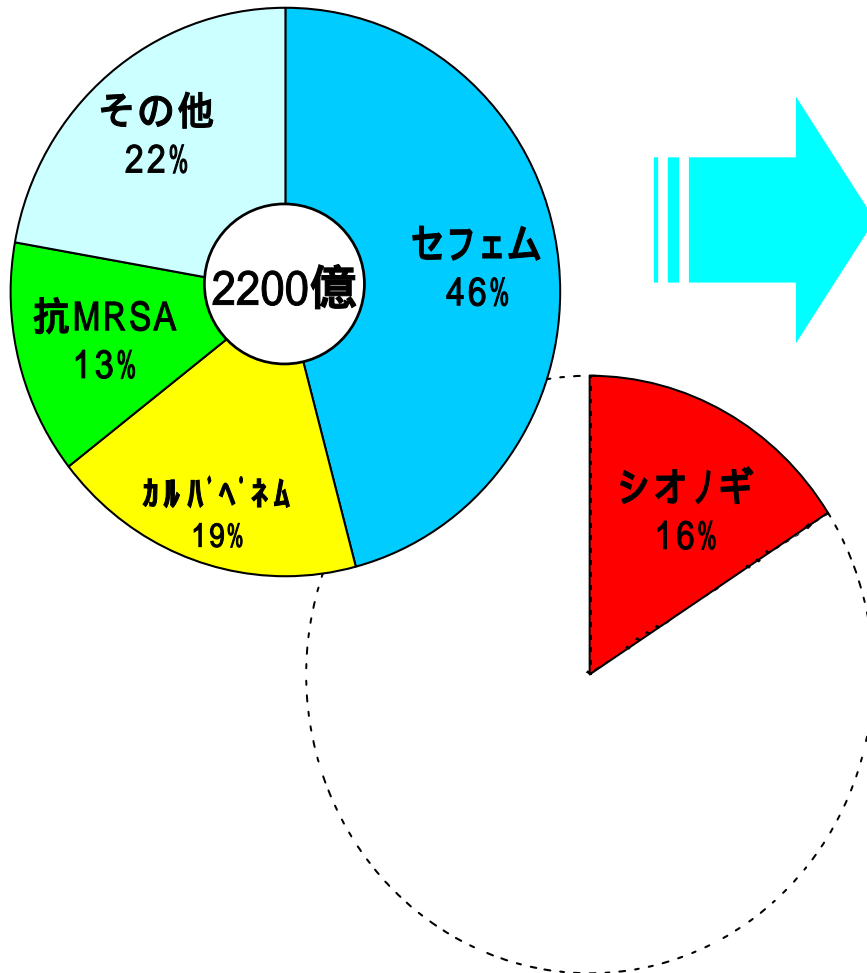
- ・ 急性期医療機関を中心に活動(選択・集中 効率的訪問・Detail展開)
- ・ 軽中等症～重症感染症治療に作用機序の異なる製品ラインアップの充実により患者様個々の病態に対応した治療法の提案を実現

(注射剤:フルマリン・プロアクト・フィニバックス・バンコマイシン)

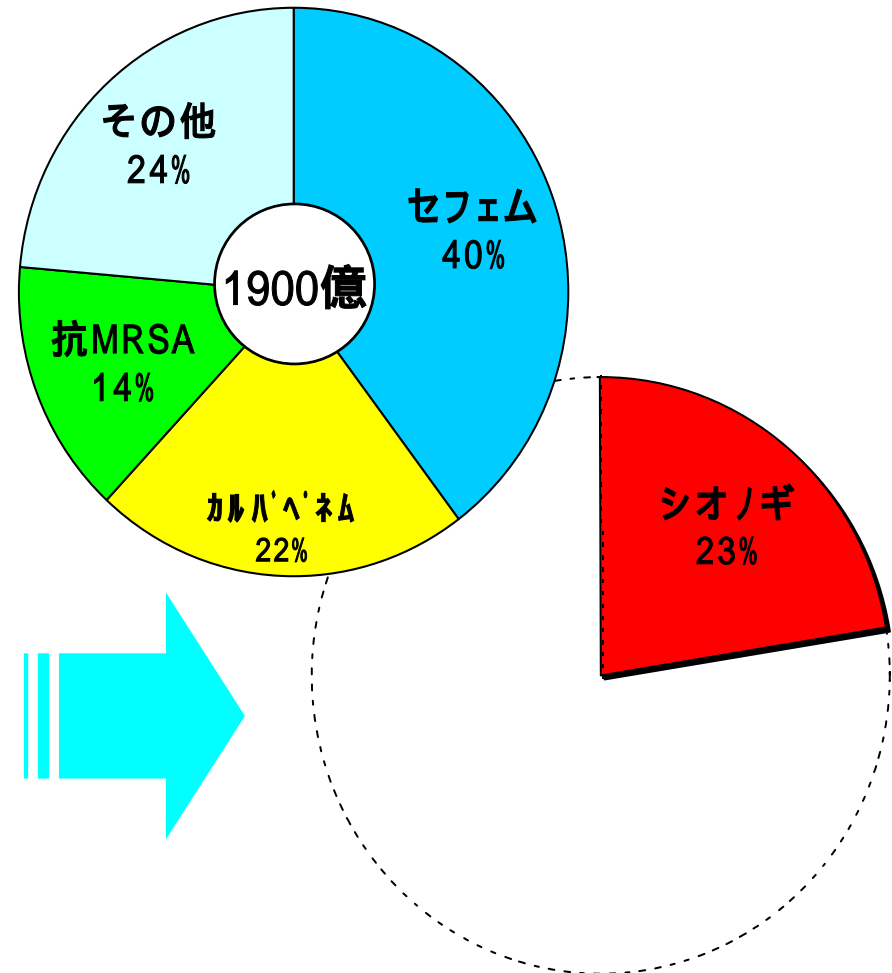
- ・ 感染症に併発する諸疾患・症状の治療に最も適したシオノギ製品の効率的セットDetail展開
- ・ フルマリン+プロアクト:05年度セフェム市場規模 980億 漸減傾向 シェア約23%
- ・ フィニバックス:05年度 カルバペネム市場規模 415億(目標:シェア 3%)
09年度 カルバペネム市場規模 420億(目標:シェア42%)

市場規模:薬価ベース

2004年度



2009年度





営業領域：感染症(内服)

- 抗生剤市場におけるNo.1シェアのプレゼンスの拡大 -

2005年度:上期

- ・ シェア:フロモックス(セフェム 05年度上期:38.8%)

第2次中期計画の達成への展望

- ・ 呼吸器感染症領域での各種病態に対する作用機序の異なる製品ラインアップの充実により患者様個々の病態に対応した治療法の提案を実現

(フロモックス・アベロックス)

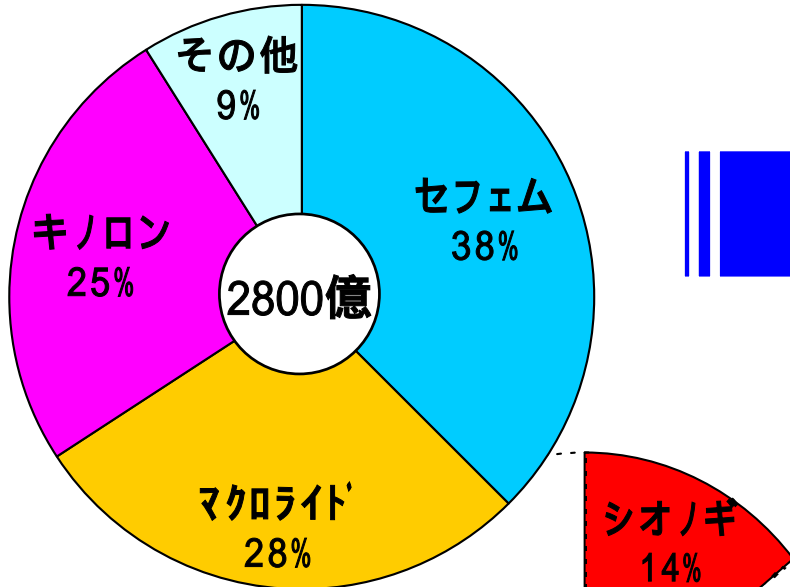
- ・ 新製品:アベロックスの速やかな立ち上げ(12月上市予定)によるレスピラトリーキノロンの普及
- ・ 感染症に併発する諸疾患・症状の治療に最も適したシオノギ製品の効率的セットDetail展開

- ・ フロモックス:セフェム05年度市場規模 1,050億 漸減傾向 シェア40%達成

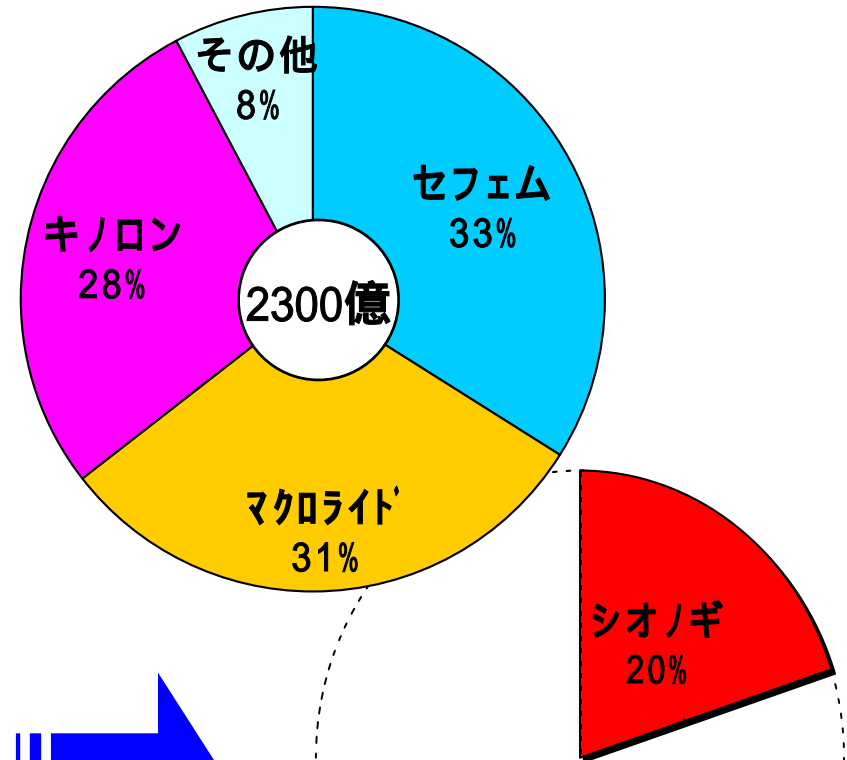
- ・ アベロックス:ニューキノロン 05年度 市場規模 745億(目標:シェア1.5%)

ニューキノロン 09年度 市場規模 650億(目標:シェア18%)

2004年度



2009年度





営業領域：疼痛

- がん疼痛の完全除痛にこだわるDetail拡大 -

2005年度：上期

- ・ DOTベース・シェア：オキシコンチン(2004年平均：28% 2005年平均：40%超)
オキシコンチン + MSコンチンでは横ばい

第2次中期計画の達成への展望

- ・ がん疼痛治療に精通していない医療従事者への啓蒙を社会的使命として継続
- ・ 患者個々の疼痛程度に応じた適正使用の推奨行動を拡大
(start with ・ stay with)
- ・ 速放製剤上市による完全除痛の早期実現
- ・ 組織的な対応：研究会、小セミナー等(年間400～500回)の企画・実施
WHO方式がん疼痛治療法(世界標準治療法)の理解浸透を図る
- ・ 2005年度 市場規模：320億 金額シェア：40%(オキシコンチン + MSコンチン)
2009年度 市場規模：355億 金額シェア：50%(")



営業領域：疼痛

DOT (Day of Therapy, 延べ処方日数) の月別推移

2005年以降、投与患者数ではオキシコンチンがTOPブランドである

注：1日平均投与量をOXC=30mg, MSC=60mg, フェンタニール・パッチ=3mgとした

IMS JMDI 1999-2003 : 2nd half, 2004 : 1st halfの平均値から算出

(DOT)

1,000,000

900,000

800,000

700,000

600,000

500,000

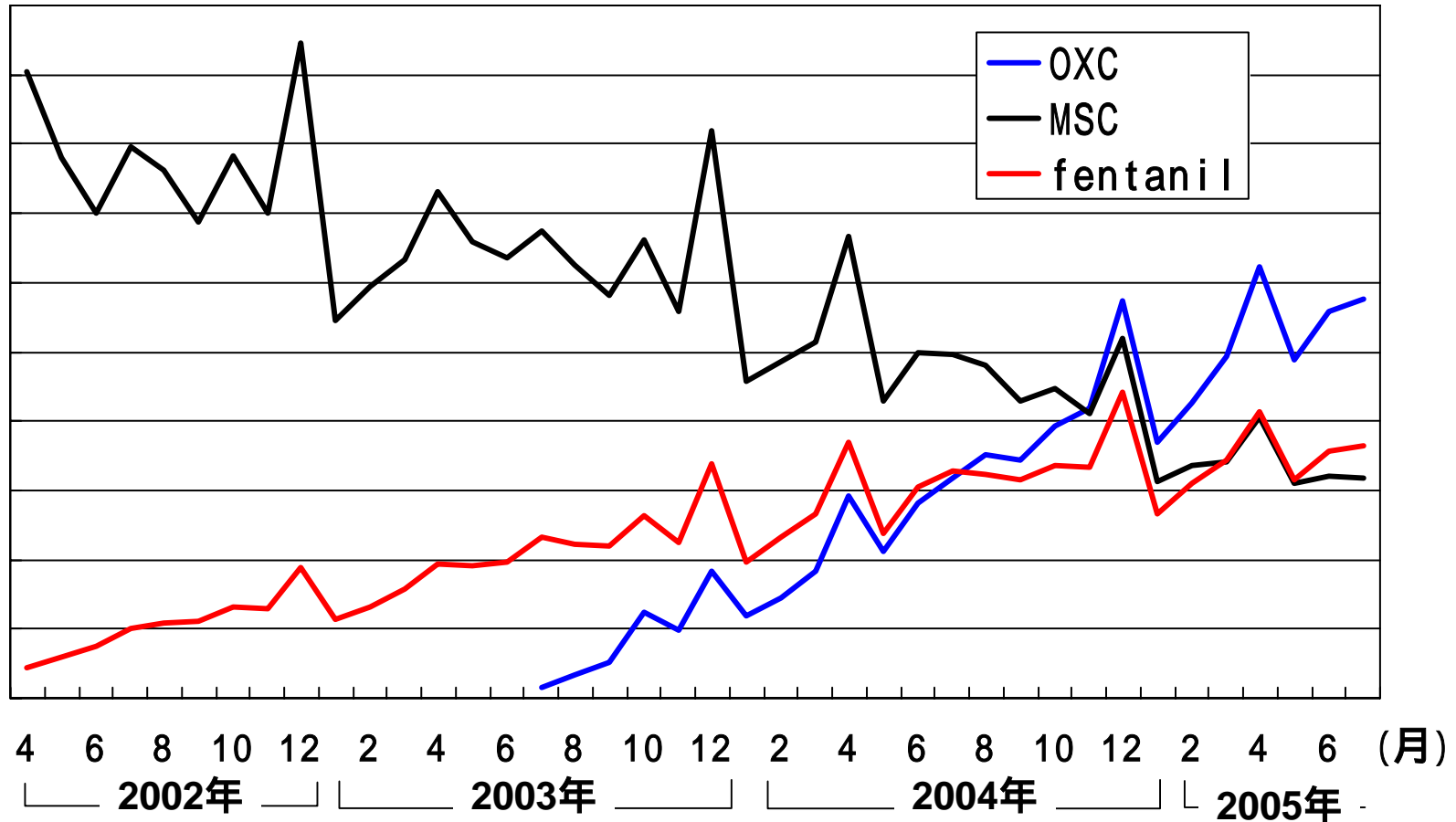
400,000

300,000

200,000

100,000

0





ケストール：使用成績調査の進捗と今後の予定

05年 06年
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月

1. 患者登録

登録予定
~11月

3,000例~

登録予定
~06年3月

9,000例

2. 調査表回収

調査表
回収予定
~4月

3,000例~

調査表
回収予定
~06年8月

9,000例



本資料のお問い合わせ先

塩野義製薬株式会社 広報室

本社

TEL: 06 - 6209 - 7885

FAX: 06 - 6229 - 9596

東京

TEL: 03 - 3406 - 8164

FAX: 03 - 3406 - 8099

本資料の将来の予測等に関する各数値は、発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づくものであり、競合状況等にかかわるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測数値と大幅に異なる可能性があります。